

# 全国障害者問題研究会 北海道支部

## 第 44 回支部学習会開催要項

新型コロナウイルス感染症は、障害のある人の教育・福祉・医療にあらたな対応を迫るとともに、これまで潜在化していた社会的な課題を次々と明らかにしました。5 類感染症への以降に伴い、あらゆる事柄が「コロナ以前」に戻されつつありますが、いまいちど今日的課題を確認し、本質についての議論をする機会にしたいと考えています。

今回の学習会は、会場への参集とオンラインを併用した開催方法としました。支部としては初めての試みですが、この広い北海道において、あらゆる地域からより多くの方が参加しやすい状況をつくりたいと考え取り組みます。

多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

日 時 2023 年 9 月 9 日(土) 10 時～15 時

会 場 北海道高等学校教職員センター【オンライン併用】

地下鉄東西線・西 11 丁目駅下車徒歩 3 分(札幌市中央区大通西 12 丁目)

主 催 全国障害者問題研究会北海道支部

後 援 北海道、北海道教育委員会、北海道社会福祉協議会

参加対象 会員及び学校・福祉・医療等の関係者、障害当事者・家族、学生等。

定 員 会場での参加定員～70 名 オンラインでの参加定員～100 名

参加費 会員 500 円、非会員 1000 円、障害当事者と学生 500 円

**※下記案内に従い事前に参加申し込みをお願いいたします。**

### スケジュール

9:30 10:00		12:00	13:00	15:00	16:00
受 付	開 会	記 念 講 演 「自閉スペクトラム症 児者の心の理解」	休 憩	分 科 会 ① 教育 ② 福祉	支 部 総 会

記念講演 (10:00~12:00)

## 自閉スペクトラム症児者の心の理解



別府 哲 氏 (岐阜大学教育学部教授)

記念講演でお話をいただく別府哲氏は、著者のなかで次のように述べています(『自閉スペクトラム症児者の心の理解』全障研出版部、2019年)。

**「自閉スペクトラム症児者は人の心を理解するのが苦手。だから、コミュニケーションがうまくできない。そのため支援として心の理解を教えることが重要であると言われたりします。しかし、コミュニケーションは、二人(双方)がわかり合うことで成立するものです。そう**

**考えれば、コミュニケーションを深めるためには、自閉スペクトラム症児者に障害のない人の心を教える方向ではなく、障害のない人が自閉スペクトラム症児者の感じている世界を知る方向もとても大きな意味を持っているはずなのです。」**

本記念講演をとおして、自閉スペクトラム症児者が感じている心の世界に近づき、発達的理解に基づいた指導・支援の在り方について、ご参加いただく皆さんとともに学び、考えたいと思います。

分科会 (13:00~15:00)

### 分科会 1(教育) 「若手教師の実践から学ぶ発達保障」

子どもが教師の働きかけを拒んだり、「問題行動」が激しくなっていくと、子どもの気持ちがわからなくなり、どのように働きかけてよいのか悩み、途方にくれてしまうことがあります。教師になって間もない頃であればなおさらです。周りを見ると、先輩教師と子どもたちが、落ち着いて授業をやっています。その先輩教師からは、「〇〇さんは、いつも声をあげたり、先生をこっぴどく叱っているけど、やめさせないとダメだよ」と言われます。〇〇さんが声をあげたり、こっぴどく叱るのはどうしてなのだろうと、日々思いを寄せて考え、働きかけますが、なかなか解決しません。

子どもの行動の背景にあるねがいを探りながら、そのねがいを実現するために、子どもの気持ちに思いを寄せ、試行錯誤の実践にとりくむ若手教師のレポートをもとに、子どものねがいに寄り添うこと、そのねがいを実現するための子どもと教師の間の相互の働きかけ、その結果である「子どもの変化＝発達の事実」を検討していきます。

悩みながら取り組まれた若手教師の実践の中にある発達保障の視点を探るなかで、子どもの発達を支える教育実践とは何かを考え合いたいと思います。また、教員経験の長い方に、若手教師の実践にも触れながら、自身の実践を報告していただきます。

■報 告 「コミュニケーションのとり方と関わり方の葛藤」(仮)

長 嶋 翔 太 さん (特別支援学校教員)

「子どものねがいと教師のねがい～悩み、葛藤を大切にすること関係づくり～」(仮)

島 由 佳 さん (特別支援学校教員)

■共同研究者 田 中 雅 子 さん (北海道教育大学釧路校)

■司 会 藤 田 明 宏 さん (札幌伏見支援学校)

## 分科会 2(福祉)

### 「みんなで語り合おう～日々現場で起きていることから考える権利保障～」

障害者虐待や差別のニュースに「合理的配慮」や「意思決定支援」など、“制度改革はすすんできたはずなのに…”という思いに包まれます。一方、現場で抱えるジレンマから発達保障や権利擁護との矛盾に悩むことも。働き手不足の今だからこそ、本音で語り合ひましょう。福祉の現場で起こっている日々の出来事を分科会に持ち込んでみんなで共有しあう場にしたと思います。

支援を行う中での喜びや疑問、ちょっと言いたいことがある、など、一人 5 分程度の短いレポートにして発表しあいます。その中から、共通点を見つけ出し、今日の福祉の現場で起きていることと、社会のあり方や制度との関係を考えてみたいと思います。

#### 【参加方法】

ご自身の職業(立場)と、日々の実践や暮らしの中での“思うこと”をミニレポートにしていただき 5 分程度のスピーチをお願いします。

\* ミニレポートの公開が可能な方は、オンラインの参加者に画面共有を行いますので、事前に加藤<katou@nire.or.jp>までレポートのデータをお送りいただくと助かります。

\* ミニレポートの作成は必須ではありません。当日“思うこと”を自由に語っていただく形も OK です。

\* 聞くだけの参加も可能です。話すことが苦手な方もご参加いただけます。

■報 告 分科会②参加者のみなさん

■共同研究者 北 村 典 幸 さん(旭川市立大学・社会福祉法人 あかしあ労働福祉センター)

村 田 修 さん(社会福祉法人 北翔会 札幌すぎな園)

高 井 賢 二 さん(社会福祉法人 さっぽろひかり福祉会)

■司 会 加 藤 法 子 さん(社会福祉法人 楡の会)

# 会場参加／オンライン参加ともに **8月末までに事前申込**をお願いします

## 参加申し込みの方法



次の3つから1つを選び、参加申し込みをお願いします。

- ① Peatix(ピーティックス)を利用する → <https://qr.paps.jp/YsIhL> →  
※上記 URL(QR コードも同じ) にアクセス後、ホームページ右側にある **チケット**  
**を申し込む** をクリックして、その後の指示に従ってください。
- ② メールで申し込む → zensyoken54@gmail.com
- ③ FAX で申し込む → 0154-44-3387 (北海道教育大学釧路校・戸田研究室)  
※ **メールおよび FAX** で参加申し込みをされる際には、①お名前、②所属、③メールアドレス(パソコンまたはスマートフォン用)、④参加する企画(記念講演・分科会 1・分科会 2)、  
**⑤会場での参加か、オンラインでの参加か** を記載してください。

## 参加費支払いの方法

次の3つから1つを選び、参加費の支払いをお願いします。

- ① Peatix からクレジットカードまたはコンビニ ATM で参加費を支払う。  
→ Peatix の画面で指示に従ってください。
- ② 会場にて現金で支払う。 → 会場に現金をご持参ください。Peatix で参加申込をされる方は、同ホームページの画面にある「会場で支払う」をクリックしてください。
- ③ 郵便振替または銀行振込にて支払う。  
※①郵便振替 02720-7-16858 全国障害者問題研究会北海道支部  
②銀行振込 北海道銀行花川支店(普)0030870 全国障害者問題研究会北海道支部 二通 論  
【会員 500 円、非会員 1,000 円、障害当事者と学生 500 円】

## オンラインで参加を希望される方へ

- ・オンライン会議システム、Zoom を使用して参加することができます。
  - ・接続先の URL 等は、申込時に入力いただいたアドレスにお知らせします(5 日程度前まで)。
  - ・あらかじめ、お手元のパソコン、タブレット等に Zoom のアプリを入れておいてください。
- ※ネット環境等によっては、音声や画像の不具合が生じる可能性があります。ご容赦ください。

【問い合わせ】全国障害者問題研究会北海道支部 支部学習会事務局

メール zensyoken54@gmail.com FAX 0154-44-3387